

老眼鏡

「希望を語って闘って
叶岡哲さんの歩いた道」
この度、「叶岡哲さんの足跡
を記録する会」編集の「希望
を語って闘って」が飛鳥出版
室から出ました。321ページ、
千五百円です。

奥様の淑子先生が自費出版
し販売金は「山原資料室」に
寄付されます。
叶岡さんと言えば、高退協
の殆んどの方がご承知のこと
でしょう。

あの勤評闘争時代の高等教
組の名書記長。団交事件の被
告とされ、長期の裁判闘争の
結果、和解で懲戒免職から停
職1年になったが、教壇には
戻れず、惜しまれた誠実で優
秀な教育労働者でした。その
後、信念に生き、政治革新、
労働者教育、市民文化運動で
不屈に活躍。いま闘病中の身
です。

淑子先生は「こあいさつ」
の中で「ささやかでも高知の
半世紀にわたる民衆の運動史
の一端を映し出せるなら、そ
して未来に引き継いでもらえ
たら」と書かれ、須田編集長
も「本書がただ懐古書として
ではなく時代を拓く標榜とし
ての役割を果すものとなれ
ば」とあとがきしています。
私も編集委員の一人として、
高退協の仲間の皆さんに、是
非一読と販売普及にお力添
え下さればと心から念願致し
ております。内容は次の通り
です。

- 第一章 その歩みを方向づ
けた戦争体験
- 第二章 平和と民主教育・高
校生の成長を願つ
て
- 第三章 歴史はわれわれに無
罪を判決する
- 第四章 怒りを忘れたら人間
でなくなる
- 第五章 人間発達のロマンを
語って
- 第六章 演劇鑑賞会との楽し
いかかわり

☆取次ぎ先 岡崎清恵
高知市横浜西町七―三
電話八四二―三七四七

旅

ポーランド・アウシュビツ
ツをたずねて
渡辺正子

前々から機会があれば一度
訪れたいと思っていたアウシ
ュビツツへまだ雪が残ってい
る三月末に一週間の旅をし
ました。

第二次世界大戦中、ナチス
ドイツに占領された土地のユ
ダヤ人やポーランド人・その
他の人達が世界各地から囚人
として強制収容所に送り込ま
れ、殺されたり劣悪な生活環
境の中で重労働に従事させら
れたところです。その犠牲に
なった人の数は正確には分か
りませんが、百五十万人又は
それ以上ではないかと言われ
ています。

今、アウシュビツツの強制
収容所跡は国立博物館として
一般に公開されています。

旅行から戻って一ヶ月経つ
た今でもアウシュビツツにつ
いて話す事は、私にとってあ
まりにも大きすぎる課題です。
実際にもその場に立ち、展示
物を見、説明を聞き、空気に
触れ、臭いを感じ、六十年前
にそこで行われた事を考え合
わせようとした時、その規模
の大きさ内容の深刻さが私の
頭での処理能力をはるかに超
えたものだと思つたからです。
全くの混乱状態の中で断片
的に印象深かったものは

「ARBEIT MACH
T FREI」の文字です。
収容所の入り口に囚人が作ら
された「働けば自由になる」
のスローガンがかかった大き
な門があります。広島大学へ
の留学経験もあるというポー
ランド人のガイドさんは「こ
の皮肉」と説明しました。私
は：少し違うんじゃないかと
思いました。この門をくぐら
された人の胸の内は？と考
えるところに人の心を弄んだ
言葉は外にあるだろうか。

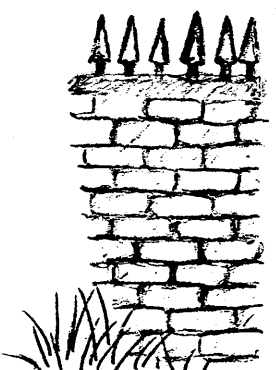
収容所のまわりは有刺鉄線
のフェンスが張りめぐらされ
ていて奥の方に後に絞首刑に
なった収容所の責任者ヘスの
立派な住宅がありました。

フェンス一つ隔てたヘスの
家庭で彼は普通のよき夫、普
通の子煩悩なよき父親だった
と説明がありました。普通の
人が何故？どうして？の疑問
が起きました。一度組織の中
に組み込まれたら以後は全
てYES or NOしかないのだと、
そして戦争とはそういうもの
なのだと思ひ到りました。

ビルケナウからの帰途、バ
スの中で同行の方が話をし
ていました。ドイツは戦後すぐ
罪を認め世界中の関係者に率
直に謝罪しました。又その責
任者を長い間追及し被害者に
対する補償も行っているよう
です。それに比べどこかの国
の戦後処理の仕方は如何なも
のであろうか？…と。

ポーランドは歴史的にも政
治的にも古くから複雑な変遷
をくり返してきたようです。
最近EUに加盟しましたが経
済格差のため通貨は、ユーロ
ではなくズウォティのまま
です。

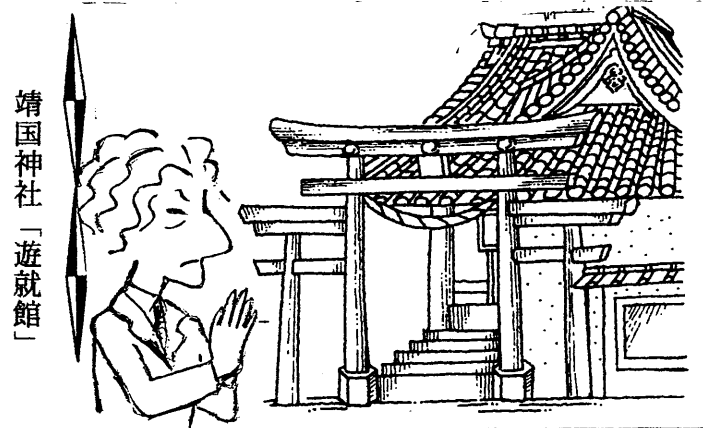
今回の旅は第二次大戦で徹
底的に破壊し尽されたワルシ
ヤワとクラクフだけの見学で
したが、一度でも戦争をする
と、人の生命やその心は勿論、
物や時間の損失は計り知れな
いほど大きく悲惨なものであ
ると改めて考えさせられまし
た。



川柳 小澤 幸泉

潮騒 集①

―歩く・シナリオ・似合う―
妻がまず行き先知らぬ
船を出す
使われて捨てられてゆく
紙コップ
油断なく生きて疲れと
むなしさと
マンガ本四角に並ぶ
荒れた部屋
恋しいひとが曇りガラスの
奥に居る



靖国神社「遊就館」

きな臭い世の中である。
憲法―教育基本法―靖国
神社―かつての惨禍を忘れて
しまつて、また同じ道をたど
うとしているこの頃の日本をな
んとかしなくてはと思う。

末期癌である伯父の看病の合
間を縫って、首相の参拝が問題
になっていく靖国神社にある遊
就館を観てきた。韓国の大統領
とかが「一度この目で観たい」
と言つたという例の戦争博物館
である。

閉館まで一時間足らずの駆足
参観だったが驚いた。全館これ
かつての日本軍国主義への賛美
である。第二次世界大戦を大東
亜戦争と呼び、「私たちは忘れ
ない―感謝と祈りと誇りを」
と題する戦争史の映画が上映さ
れている。場内数ヶ所ではビデ
オを使って、戦時中のニュース
映画が昔と同じアナウンスで流
されている。別の部屋のバック
ミュージックは軍歌である。

零戦・人間魚雷に加えてベニ
ア板製のボートを使つての特攻
攻撃に駆り出された若者達、遺
骨収集の際に集められた錆びた
鉄兜や飯盒に想像される兵站の
途も閉ざされ飢えて死んでいっ
た兵士達、戦後集められた写真
はいずれも若く、このような年
令で死ななければならなかった
人々とその背後にいる無数の人
々の苦しみ・悲しみを想つた。
祀られている魂は二百四十六
万六千余におよぶそうである。
(小島 真子)

今、高教組は



高知では今年はやや早い春の訪れでした。学校では新学期がスタートし、香長平野では田植えの終わった田んぼの上をツバメが舞う季節になりました。しかし今、憲法・教育基本法をめぐる情勢は緊迫したものとなってきました。自・公の「与党教育基本法改正に関する協議会」は四月一三日、教育基本法の与党改正案を決定し、発表しました。そして、ゴールデンウィーク前にも法案を国会に提出しようとしています。

しかし、与党がねらう教育基本法の「改正」は「真理と平和を希求する人間の育成」という戦後教育の原点を根本から覆し、「教育の憲法」ともいわれ憲法と一体の現行法をおもとから変質させるものです。そのねらいは「個人の尊厳」を「愛国心」や「公共の精神」を目標とする教育にかえ、「戦争する国」のづくりをめざすことです。また、教育の機会均等の理念を否定し、教育の格差を拡大していくことです。競争社会に対応するたくましいエリートと従順な国民をつくるね

相撲三二知識 (七十)

林 勤

部屋別総当り (一)

取組編成をふり返ってみると、東西対抗制(番付が東方、或いは西方という同じ方屋になると対戦しない)から一門・系統別総当り(同じ方屋でも一門・系統が違うと対戦する。昭和二十二年秋場所から)となり、更に現在の部屋別総当り(番付の東方、西方や一門・系統に関係なく、総ての部屋と対戦する)へと発展してきた。

一門(系統)別総当り制では、一門内の部屋、例えば二所ノ関一門内の本家二所ノ関部屋と分家片男波部屋、或は出羽海一門内の出羽海部屋と春日野部屋の力士は対戦しなかった。これでは上位力士の多い一門は有利である。また、この制度では実現できない好取組が沢山ある(現在で言うならば、朝青龍―千代大海、魁皇―白鵬、白鵬―安馬、琴吹

らいがあるのです。「愛国心」の表現など多少の手直しはなされましたが、その本質は変わっていません。そればかりか、この案には現行法にない「目標」の項を設けています。これにより、学校の教育目標がこれに対応しているかチェックし、教育内容を国家が直接統制するということんでもないものとなっています。特に「わが国の郷土を愛する」という言葉を「目標」に入れたことは重大です。東京にみられる「日の丸・君が代」の強制が教育基本法を使って行われることになるのです。

そのほかにも学校現場では、新たに導入された「新しい人事評価制度」の査定給への導入や統廃合問題、入試制度など課題は山積しています。私たちは問題を解決するためには各職場での対話活動が大事だと考えています。執行委員会では、各職場に「職場九条の会」を結成することを確認しました。そのうえで仲間、父母、県民との共同を広げることが大事だと考えています。子ども・青年に明るい未来を保障するために憲法教育基本法改悪を許さないために全力で取り組みます。

州―稀勢の里：等は、同じ一門であるので対戦しないことになる)……等から、取組の改善を望む声は前々からあり、たびたび論議されたが、そのたびに立消えとなっていた。それには次のような事情があった。

それは、一門内の結びつきが一般に現在よりも非常に強かったことである。例えば、①力士数の少ない小部屋は本家の土俵へ行つてけいこをつけてもらう、②地方場所へ行くところも一緒、③本家から何かと経済援助を受けている：等で、とても闘える状況、心情ではなかった。事実、これを機に小野川部屋が出羽海部屋へ、追手風部屋が立浪部屋へ吸収されている。(註。両部屋とも、現在は分家、独立している)。

こうして、論議されながら長年見送られてきた部屋別総当り制について小委員会を設置してさまざまな事柄について検討。実施は拙速に過ぎない

いかという声もあったが、到頭実現した。その背景には、①昭和四十年初場所から入場料値上げをするので、その見返りとして好取組をふやすために実施する、②当時の理事長は元双葉山の時津風であった、ということがある。右に述べたような困難点について説得、押し切ることができたのは、やはり理事長が大横綱双葉山であったからであろう。ところで、今まで同じ部屋の兄弟弟子同様の仲であった力士とは闘いにくい、力が出し切れず情けをかけたという疑惑を生むのではないか等、懸念もある中でスタートした昭和四十年初場所初日早々、後々語り継がれる大番狂わせとなつた部屋別総当りならではの大一番・大鵬―玉乃島戦が組まれた。

大鵬はこの時二十四歳の若さながら既に優勝十五回、大横綱への道を歩き始めていた。対する玉乃島は、この場所新小結となつた新進気鋭である。玉乃島は大鵬のいる二所ノ関部屋へ昭和三十四年三月に入門、大鵬の胸を借りて強くなつてきた弟子弟子である。二年前に師匠玉乃島の片男波部屋への分家・独立に伴つて部屋を出たので、今日の対戦となつたものである。

玉乃島激しく突つ張つて先手をとるも大鵬それを組み止めて右四つ……、玉乃島右内掛けの奇襲、見事に決まつて大鵬は土俵中央で倒れた。この大一番に場内は興奮、部屋別総当りは上々のスタートとなつた。

玉乃島はその後も大鵬にかわいがられて強くなり、五十一代横綱玉の海となつた。右四つの型は完璧で、双葉山の再来といわれたが、昭和四十六年十月十一日、盲腸炎手術後の合併症で二十七歳の若さで急逝したのは惜しまれる。

なお、現役横綱の死は、本県出身玉錦(昭和十三年十二月四日)以来で史上四人目である。四日目は、春日野部屋・横綱栃ノ海と出羽海部屋・大

関佐田の山の一番が組まれた。この両部屋は、とりわけ結びつきの強い部屋であった。その両部屋の部屋頭の対戦である。両力士は初土俵が二場所しか違わず、大一番の前には一緒に作戦を練つたり、地方場所では一緒にテレビを見て研究もした仲であったという。両力士は仕切りのうちは目を合わせず、やはりやりにくさを感じさせた、とある。栃ノ海が一気に土俵際まで寄り詰め、外掛けにいったところを佐田の山打つ棄りで逆転勝ちとなつた。佐田の山はこの場所十三勝二敗で優勝、場所後に五十代横綱になつている。

語り継がれている初日の大一番、二番を取り上げたが、部屋別総当りは実施前に心配された幾つかの点も殆んど問題なく大成功であった。部屋別総当りによつて新しく生まれた好勝負は大人気で、入場料値上げは影響もなく連日大盛況であった。

この成果は一場所だけに限らず、その後、部屋同士の競争、励みとなり、好取組が益々ふえた。この制度は更にすすんで、「個人別総当り制」を望む声が一時高まっていたが、現在はそれ程でもなくなつた。それは、部屋別総当りを導入した時以上に複雑な問題があることや、かつて二子山部屋に、若貴両横綱や大関貴ノ浪をはじめ、幕内上位の力士まで多く揃つていたように、多くの人気力士が揃つた部屋が現在はなくなり、個人別総当り導入のメリット、必要性が見えなくなつたこと、等のためである。

個人別総当りは、「相撲部屋制度、弟子育成」のあり方との関連があり、ただ、好取組が多く見られるので面白いというだけではすまない大きな問題がある。

これらのことについては、またの機会に……

